

# パネルディスカッション ～中小企業DX成功事例に学ぶ～ (冒頭論点資料)

令和8年2月17日  
イドモ(株) 小池明  
(つなぐITコンソーシアム 幹事)

※中小企業庁の説明資料を一部引用しています。  
※記載した指標が最新でない部分があります。

# 自己紹介

## 小池 明

イドモ株式会社 代表取締役

つなぐITコンソーシアム 幹事

ITコーディネータ (9050732024C)

共通EDI推進サポータ

(一社) SCCCリアルタイム経営推進協議会 相談役

(一社) 中小企業デジタル経営推進機構 理事

### <略歴>

～2024年8月 経済産業省に勤務

(在職時の主な所属)

- ・ 商務情報政策局
- ・ (独) 情報処理推進機構 (IPA)
- ・ 中小企業庁
- ・ 内閣サイバーセキュリティセンター
- ・ デジタル庁併任
- ・ 情報システム室

2024年8月 経済産業省退職

2024年9月 イドモ (株) 設立

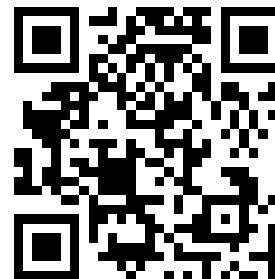


イドモ (株) は、中小企業向けのデジタル活用支援事業を行っております。

<連絡先等>

HP <https://www.idmo.co.jp/>

Email [info@idmo.co.jp](mailto:info@idmo.co.jp)



## パネルディスカッション登壇者

(パネラー) (※発言順)

佐々木 啓二 様 (株式会社ササキ 代表取締役社長)

渡邊 峻之 様 (株式会社エクス 営業部)

岩田 薫 様 (ITコーディネータ山梨 理事 共通EDI推進サポータ)

野田 和巳 様 (ITコーディネータ 共通EDI推進サポータ (講師) )

(モデレータ)

小池 明 (ITコーディネータ イドモ株式会社 元中小企業庁)

**パネルディスカッションから参加頂く  
野田様から自己紹介を頂きます。**

# パネルディスカッションの進行予定

演題 「中小企業DX成功事例に学ぶ 中小企業共通EDIを導入して～共通EDI導入から現状そしてこれから～」

論点整理

- テーマの論点整理

テーマ1

①AI時代も見据えた中小企業の電子受発注導入のメリット

テーマ2

②中小企業に普及するための方策

質疑応答

- 時間の許す範囲で、ご質問にお答えします

まとめ

- 本日の議論のまとめ

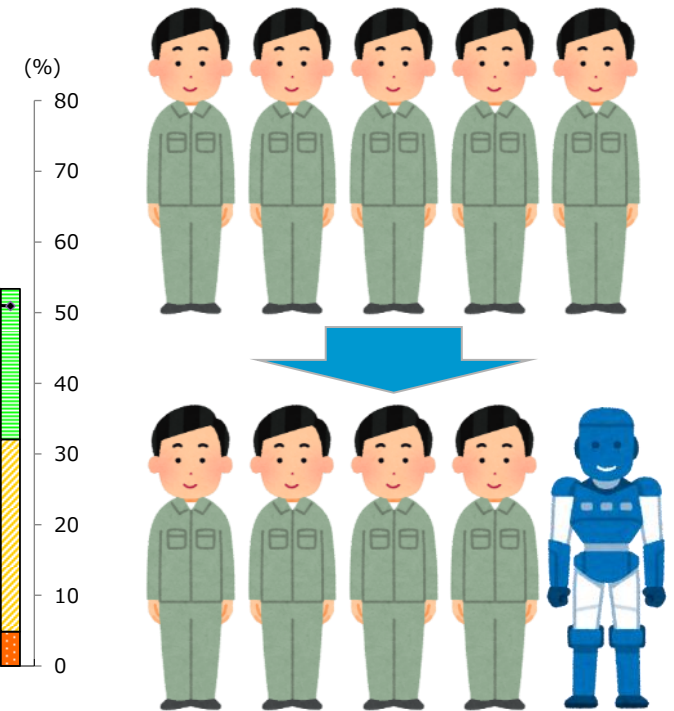
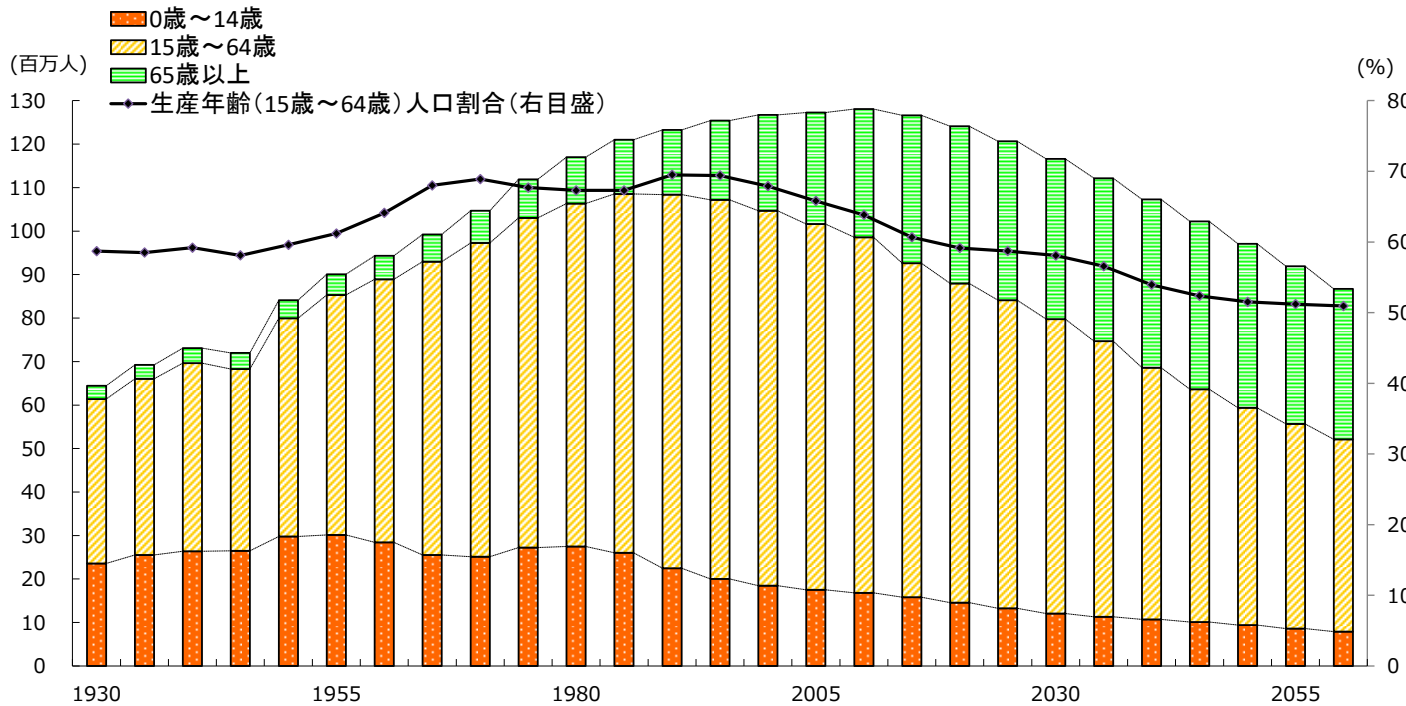
# 質問方法

- 参加者の皆さまからのご質問やご意見をお待ちしております。
- Zoomのチャット機能で、パネラー名と質問や意見を記載してお送り下さい。
- 時間内でお答えできなかった質問や意見につきましては、アンケートフォーム等を通じて皆様からお知らせ頂いて、後日事務局を通じてメール等で回答いたします。

# 論点整理

# コンピュータと共に働く

- 少子高齢化の影響により、今後急激に生産年齢は減少、人手不足が深刻な課題に。
- 生産性維持のためにも、デジタル活用が急務。
- データの可読性・蓄積・活用など、デジタル処理のための工夫が必要。



資料：総務省統計局「国勢調査結果」「我が国の推計人口」「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)

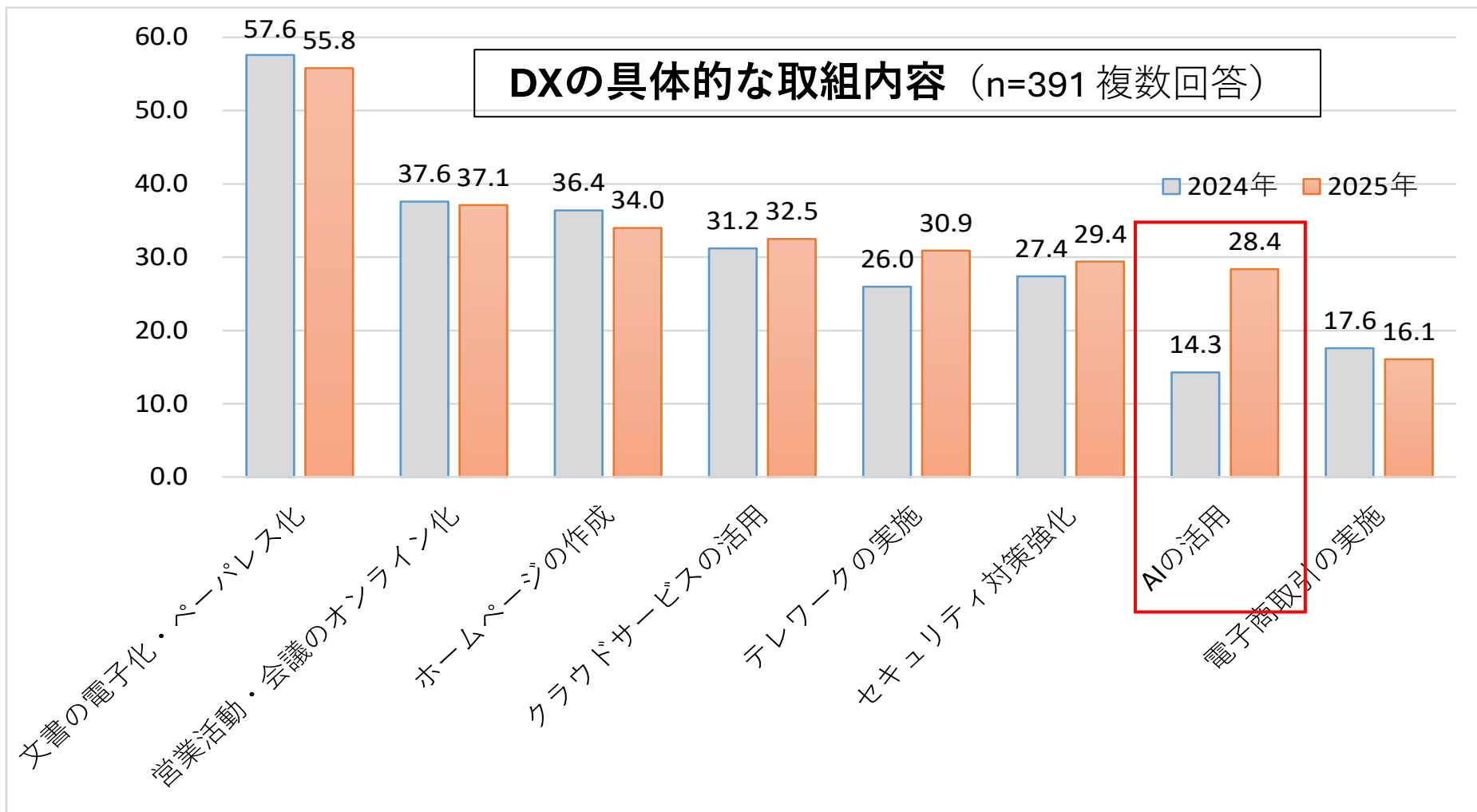
(注) 1. 将来推計人口は、出生中位(死亡中位)推計による

2. 15歳以上人口に占める中小企業の従業者総数の割合は、2012年時点で29%、2014年時点で30%。2012年以前の従業者総数のデータはないが、会社の常用雇用者数+個人事業所の従業者総数の合計値が、15歳以上人口に占める割合は、2001年以降、およそ26%前後で推移。

# 中小企業もAI導入に取り組んでいる

中小企業の**28.4%**がAIの活用に取り組んでいると回答。

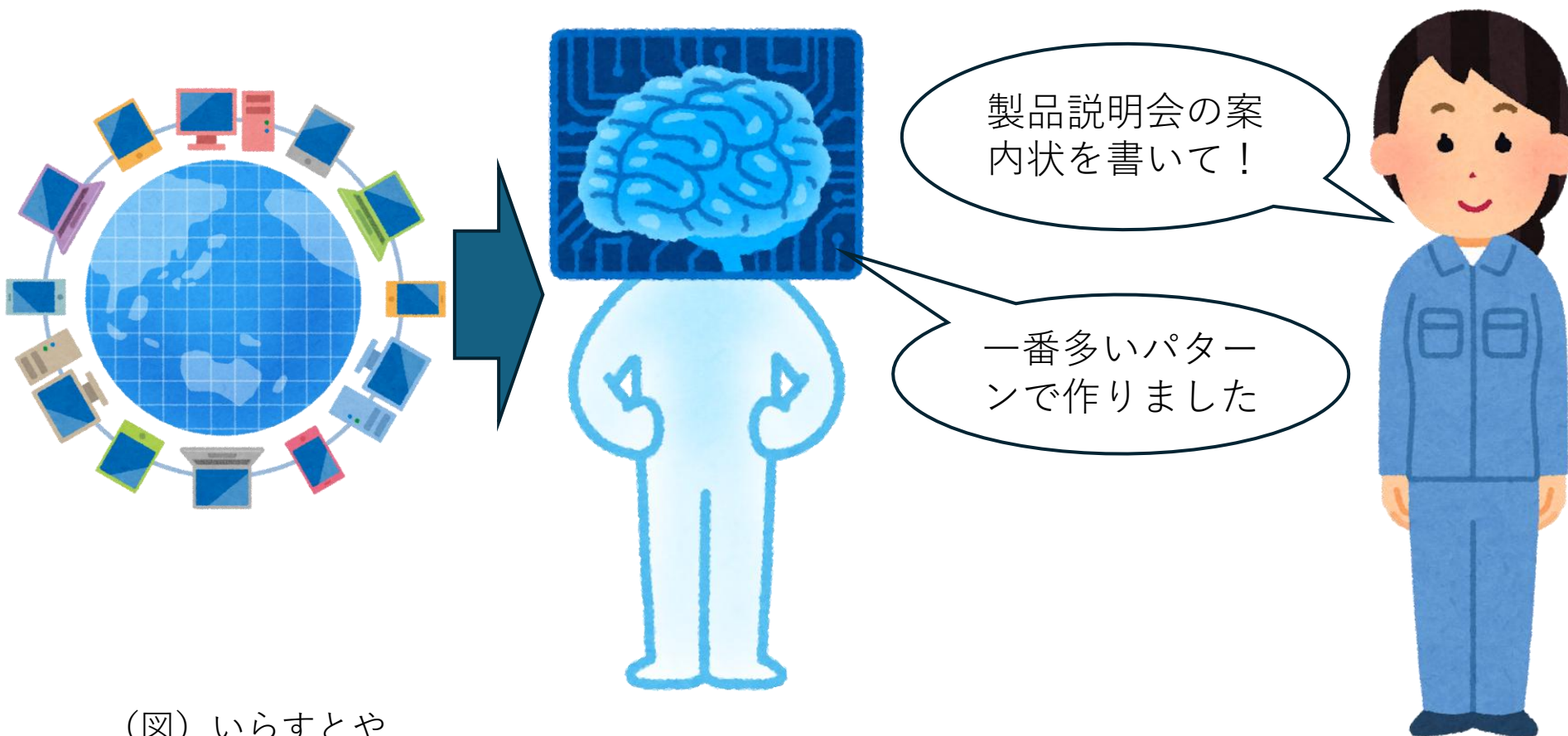
DXの具体的な取組内容 (n=391 複数回答)



(出典) 「中小企業のDX推進に関する調査 (2025年)」 2026年2月公表 中小企業基盤整備機構を元に作表  
[https://www.smrj.go.jp/research\\_case/questionnaire/fbrion0000002pjw-att/202602\\_DX\\_report.pdf](https://www.smrj.go.jp/research_case/questionnaire/fbrion0000002pjw-att/202602_DX_report.pdf)

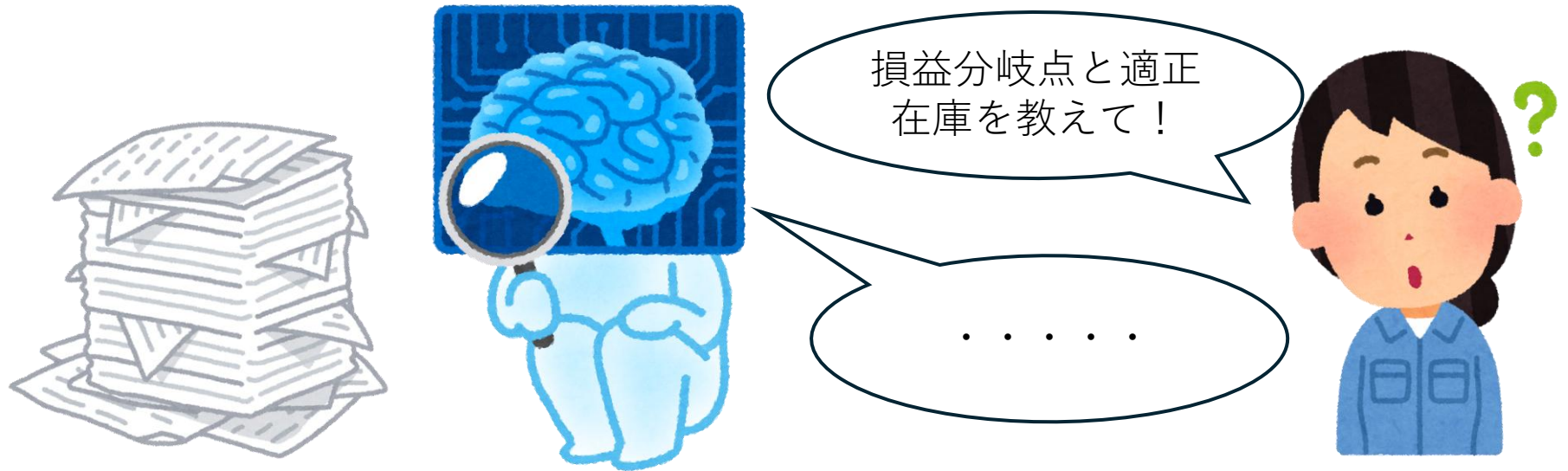
# AIは統計マシーン

- AIは統計処理をしている。
- 生成AIは、インターネット上の膨大な情報を統計処理しているので、とても物知り。
- 知っていることは、すぐに教えてくれる。



# AIを経営に活かすには？

- ハルシネーション（もっともらしい嘘）が起きるのは、良いデータが見当たらないから。
- あなたの会社の取引情報は、インターネットにはありません。
- そもそもAIは紙の帳簿は苦手。
- 将来のAI活用を見据えて、デジタル化とデータ保存が重要。



# パネルディスカッション

## パネルディスカッション：中小企業DX成功事例に学ぶ

パネラーの皆様から、電子受発注の導入に取り組まれた経験も踏まえて、AIやデータ分析・活用など、デジタル活用を推進するための課題と、できれば課題解決のために必要な取り組みについて、発言をお願いします。

※受発注に限らず、請求、決済、その他関連の業務プロセス（生産管理・品質管理など）を含めて頂いて結構です。

### （論点）

- 中小企業のAIや電子受発注も含めたデジタル活用の可能性や、課題点
- 中小企業が企業間の取引データを蓄積し、AI活用するための方策

# テーマ1：

中小企業のAIや電子受発注も含めたデジタル活用の可能性や、課題点

## テーマ2：

中小企業が企業間の  
取引データを蓄積し、  
AI活用するための方策

# 質疑応答

- 参加者の皆さまからのご質問やご意見をお待ちしております。
- Zoomのチャット機能で、パネラー名と質問や意見を記載してお送り下さい。
- 時間内でお答えできなかった質問や意見につきましては、アンケートフォーム等を通じて皆様からお知らせ頂いて、後日事務局を通じてメール等で回答いたします。

まとめ

# まとめのポイント

今後中小企業が効果的にAIやデジタル活用を推進するためには、

- ① どのように？。
- ② どうやって？。
- ③ 何を？。
- ④ どうしたら良いか、

パネラーの皆さまのご意見の中に、ご視聴の皆様の方々の今後の取組へのヒントがあったのではないのでしょうか。

# 資料について

- 講演資料は、ディスカッションのまとめ部分を含めて、後日、コンソーシアムのWebページからご提供します。



**ご清聴ありがとうございました**

**ご意見、ご感想をお待ちしております**

---